

2016年
1月12日
火曜日

田中 敦 経済学部長

充実した人生を！

もうすぐ、四年生は卒業です。就活が終わり卒業が近づいてくると、「まだ社会人になりたくない」と言ってくるゼミ生がいます。私は、「それなら、ゼミを落として留年させてあげようか？」とよく意地悪を言っています。

社会人になりたくないという気持ちの背景には、「仕事が大変」「もう甘えられない」「責任が増す」といった不安があると思います。たしかに、その通りです。仕事で忙しくなり、ミスは自分の給料や将来に影響するかもしれません。でも、それは社会人の生活の一面しかみていません。責任が増すことは、別の面からみると自由が広がっているはずですよ。

小中高大と進学するにつれ、自由と責任が両方大きくなってきました。とくに、大学生になったときは、

自分の責任で決めていく自由が一気に広がるということを大学生の皆さんは経験済みだと思います。それが社会人になると、責任さえ果たしていればあとは全くの自由です。仕事などで忙しくなるでしょうが、それでも今まで自分一人では決められなかったことが、学校の「横槍」もなく、自分で自由に選択することができきます。

これからの人生、まさに選択の連続でしょう。ただ大切なのは、どういう選択が良いのか、その物差しは一つではないということです。学校にいる間は、勉強や課外活動など、学校生活を測る物差しはあまり多くありませんでした。しかし、これからは物差しが一気に増えます。たとえば、良い仕事って何でしょうか。勤め先企業の規模かもしれませんし、給料の高さかもしれませんし、

福利厚生の実度もありませんし、転勤の頻度の少なさかもしれません。また、その企業の社会貢献度かもしれませんし、お客さんの笑顔の多さかもしれません。プライベートな生活にいたっては、それこそ人によってその理想は千差万別でしょう。つまり、自分の人生を測る物差しとして何を選択するかすら自由なのです。

では、どのようにすれば良い選択ができるのでしょうか。それにはまず、選択肢を広げる必要があります。社会は、学生の皆さんが思っているよりずっと広いものです。しかも、選択肢はもう学校の先生から提示してもらえません。良い選択肢を見つけるために、いろんなことに目を向けて視野を広げていくことが大切です。実は、大学生時代にもそうして欲しいのですが、これからは

もっと重要になるでしょう。

つぎに、選択肢の中からどう選択するかです。社会人になると、選択する局面の多くは仕事や消費など、経済活動に係わるものが多くなってきます。まさに、経済学部で学んだものを活かす時です。しかも、経済学は経済活動に限らず物事をどう考えて選択すればよいかを教えてくれる学問です。経済学の考え方がすべてではありませんが、人生のさまざまな局面での選択に大切な指針を示してくれるはずです。

生徒・学生時代という人生の準備期間を終え、いよいよ自ら人生を謳歌する時がきました。学校で学んだことを使って、楽しく充実した人生を歩んでいって欲しいと思います。